

令和6年度 学校評価(中間評価)

川北町立橋小学校

| | 評価項目と具体的取組 | 担当部署 | 評価指標 | 達成度判断基準 | 備考 | 結果・取組状況 | 改善に向けて |
|----------------------------|--|--------------------------|---|---|---|--|--|
| I 組織的な 学校運営 | 【学校教育ビジョンの具現化】 学校運営委員会や校務委員会と職員会議を密接に連携させ、学校教育ビジョンのもと、チーム学校を常に意識し、組織的主体的に学校運営に参画し、学校教育ビジョンの実現を目指す。 | 総務部 | 【成果指標】 学校教育ビジョンを意識しながら、組織的に主体的に自分の役割、取組を実行し、子どもたちを目指す姿に近づけることができている。 | 組織的主体的に学校運営に参画する中で、目指す児童の姿に近づいていると回答する職員の割合が A 80%以上 (あてはまるくどちらかの場合はB) B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 | 7月12月 教員アンケート | 肯定的回答100% あてはまる30%、どちらかといえばあてはまる70%のため、成果指標 B 取組の実行については、積極的に行われている。児童自身にも、「自分たちで」という意識が芽生えてきている。しかし、まだまだこれから行事もあり、児童をめざす姿に近づける機会がある。 | 行事など積極的に活用し「力を合わせる子」については、運動会、縦割り活動の機会を生かして、「納得するまでチャレンジし続ける子」については、持久走大会などの行事を生かして、職員全員で今後も取り組む。合わせて、計画訪問などの機会も生かし、授業を充実させ、「ばっちり学ぶ子」の姿の共有を行い、職員全員でその姿を育成していくことを確認する。 |
| | 【働き方改革】 業務の役割分担の適正化と組織的協働的な学校運営に努め、ワークライフバランスを大切にする。 | 総務部 | 【満足度指標】 職員は「ワークライフバランス」を大切にし、充実感を持って職務の遂行に努めている。 | ワークライフバランスを大切にし、充実感を持って教育に当たっている。と回答する職員の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 | 7月12月 教員アンケート | 肯定的回答 90% 満足度指標 A 校務の不均衡が起こっている可能性がある。また、職員の体調不良も見られた。職員全員が健康で、過剰な負担のない業務になるような改善が必要である。 | 2学期以降、一人に偏らないように、校務内容が均等になるよう努める。職員一人一人に声かけなどを行い、無理をしない、協力し合うことを大切に業務に取り組んでいく。また、職務遂行しやすい環境になるよう、見直しをもった早めの対応、協働体制の確立、校務分掌の進行状況の把握に努める。 |
| II 確かな 学力の 育成 | 【学力向上】 基礎学力向上計画・学力向上プランの共通実践をもとに、ばっちりタイムの計画的な取組を行い、基礎的基本的学力の向上を図る。 | 教務部 | 【成果指標】 取組の結果、基礎学力が向上している。 | 全学年においてばっちり算数と漢字の合計点(低:180点以上 中:170点以上 高:160点以上)であった合格者の割合が100%の学年が A 全学年 B 5つの学年 C 4つの学年 D 3つの学年以下 | 7月12月2月 ばっちり算数・漢字の合格者の割合 | 合格者の割合100%の学年:4つの学年 成果指標 C 実施期間の中で合格するまで取り組むことはどの学年も重ねている。しかし、個人差が大きく、一律に合格ラインを設定し、全員達成という条件が難しい学年もあった。全員達成に向けて計画的に取り組んだことで、一回で合格した者の割合は全校で87%となっている。 | 漢字においては、ばっちり漢字週間だけではなく、日常的なばっちりタイムにおいても様々な熟語での読み書きの取組を重ねていく必要がある。また、算数においても活用問題の実施を中心としながらも、基本的な計算練習の積み重ねにつながる計算練習の取組も継続的に行っていく必要がある。担任裁量の取組と全校揃えての取組をうまく組み合わせながらばっちりタイムの充実を図っていく。 |
| | 【自ら学び、考え、ともに高め合う子の育成】 課題解決への目的意識や必要感を持たせられる学習課題づくりと、その解決に向け、子供が自己決定しながら学習活動を展開できる授業づくりを推進し、児童の主体性の育成を図る。 | 教育推進部 | 【満足度指標】 児童が学びに向けて進んで取り組んでいる。 | 自ら学びに向けて取組を進めていると答えた割合が、前回よりも向上している学年が A 全学年 B 5つの学年 C 4つの学年 D 3つの学年以下 | 5月7月12月 学びの研究アンケート | 5月7月のアンケート結果を比較し前回よりも向上した学年:3学年(1学期は3~6学年で実施) 成果指数 B ほとんどの学年で、前回実施のアンケート結果より、ポイントが向上している。児童職員共に、児童が主体となる授業づくりに向けて取組を進めているといえる。しかし、アンケート項目の「学び方を自分で決めることができているか」についてはやや低い傾向が見られる。自己決定することについて、児童職員ともに共通理解が必要であるといえる。 | 授業の中で、小さな自己決定の場面を積み重ね、経験として積ませていく。また、そのことを価値付けていく。さらに、児童が表現したことを、視覚的に示すことにより、自己決定につながる手立てとしていく。また、単元の中で、必要感のある自己決定や交流を通して、つきたい力が身につけていくよう、それらの視点をもって、低・中・高部会での教材研究や単元構想を行い、授業改善を図っていく。 |
| | 【読書活動の充実】 図書館司書と連携し、毎月おすすめの本の達成状況を知らせ、振り返ることで、主体的な読書活動に向けたしかけの工夫を図る。 | 教務部 (図書担当) | 【成果指標】 学年のおすすめの本を読むことが出来ている。 (1・2年20冊、3年15冊、4~6年10冊) | 学年の「おすすめの本」を読み終えた児童の割合が A 95%以上 B 85%以上 C 75%以上 D 75%未満 | おすすめの本の冊数 7月(2年7冊、1・3年5冊、4~6年4冊) 12月(1・2年14冊、3年10冊、4~6年7冊) 2月(1・2年20冊、3年15冊、4~6年10冊) | おすすめの本の冊数目標到達79.2%、成果指標 C 教科書が替わり、それに合わせておすすめの本を替えた。おすすめの本を精選するときに、児童が手に取りたくなるものや、読みやすいものという視点をもって決めたが、高学年にとっては抵抗があった。 | 担任からの声かけ以外にも、月1回の読み聞かせや図書委員会の取り組みを通して、おすすめの本の面白さを伝えることで、読む気持ちを高めていく。読んだ本の数が少ない児童や、完読の児童が少ないクラスには、個別に声かけをしていく。 |
| III 豊かな 人間性の 育成 | 【みんなが安心できる楽しい学校づくり】 学校が安心でき、楽しいと感じられるよう、生徒指導の4つの視点を意識して授業を行ったり、児童を認め価値付けたりすることで、楽しい学校づくりに努めている。 | 生徒指導部 | 【満足度指標】 児童は、学校が楽しいと感じている。 | 「学校は楽しい」と回答した児童が、 A 85%以上 (あてはまるくどちらかというあてはまるの場合はB) B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 | 7月12月 児童アンケート | 肯定的回答94% 満足度評価 A 自分達で計画した行事を実行したことに對して、教員が姿や行動を意識的に価値付けることをした。また、授業では、生徒指導の4つの視点を生かした授業を全職員で意識的に行った。楽しい瞬間が思い出されるように、映像を流したり、写真にコメントをつけて掲示することを行った。 | 生徒指導の4つの視点を生かした授業を学校研究と連携しながら継続的に行っていく。また、児童一人ひとりの活躍に対して、児童自身が感じていることを教師が意識的に価値付けていく、楽しい場面の視覚化や集会で成長した姿を価値付け、達成感を味わえるよう学校全体で児童を盛り立てていく。 |
| | 【道徳教育の推進】 児童が自分の思いや考えをもち、友達と伝え合いながら考えを深められるよう、道徳の時間を要として、構造的な板書や発問などの工夫をし、道徳教育の充実を図る。 | 保健安全 ・体育部 (道徳教育推進) | 【満足度指標】 児童は、自分の思いや考えをもち、友達と伝え合うことができている。 | 「自分の思いや考えをもち、友達と伝え合うことができた」と感じている児童の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 | 7月12月 学校アンケート | 肯定的回答86.6% 満足度評価 B ペアやグループなど少人数で話し合う機会を設けたことにより、みんなの前では話しにくい児童も、自分の思いや考えを伝え合うことができるようになってきた。ただ、まだあまり伝えられていないと感じている児童もいる。 | より自分事として考えられるよう、教材の実施時期を見極め、運動会など行事と関連づけていく。また、自分の思いや考えは持っているが口に出して伝えることが難しい児童もいるため、ICTを用いた振り返りや気持ちメーターなど伝え方のバリエーションを増やす。話すだけでなく、ICTでも友達と伝え合うことができることを認め、価値づける。 |
| | 【児童の自主性・主体性の育成】 よりよい学校・学級づくりに向けて、児童会活動、委員会活動、学級活動等に自主性・主体性をもって取り組める児童の育成に努めている。 | 生徒指導部 | 【成果指標】 児童会活動、委員会活動、学級活動等において、児童はよりよい学校・学級づくりに進んで取り組めたことと振り返っている。 | 児童会活動、委員会活動、学級活動等において、力を合わせてよりよい学校・学級づくりに進んで取り組めたことについて振り返りが書けた児童(3~6年)の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 | 7月12月 児童のふり返り | 72.8% 成果指標 B 学校が良くなるような視点で行事や活動を、児童自らが計画し、実行することができた。しかし、さらによくしていこう改善したり、企画したりする姿は、少なかった。 | よりよくしようと活動している姿や行動を全職員で価値付ける。また、特別活動で、「一度取り組んだことをさらに良くするにはどうしたらよいか」という視点で話し合っで実行したり、取組後に友達の良さを児童同士で認め合う活動を入れていき、児童自らが力を合わせられたことや進んで取り組めたことに気づくことができるようにする。 |
| IV 健やか 身体 の 育成 | 【体力の向上】 体育の授業や児童の活動を主とした「体力作り1校1プラン」、「スポチャレ」の取組を通して体力の向上を図る。 | 保健安全 ・体育部 | 【成果指標】 ミニ体力テストにおいて、弱点だった種目の記録の平均が、5月の記録の平均を上回ったグループが、 A 5グループ以上 B 4グループ C 3グループ D 2グループ未満 | 各学年の男女別グループ(4~6年生)のうち、ミニ体力テストにおいて、弱点だった種目の記録の平均が、5月の記録の平均を上回ったグループが、 A 5グループ以上 B 4グループ C 3グループ D 2グループ未満 | ミニ体力テスト | 昨年度と今年度の体力テストの結果をもとに、弱点である柔軟性について取り組みを行うことにした。1学期は体育委員が主体となり、これまでの体育の準備体操に柔軟を取り入れた。 | 11月にミニ体力テストを行う。準備体操の取り組みだけでは、柔軟性は大きく成長しないことが考えられるので、体育委員を中心に柔軟性に関わる企画・取り組みを行い、意識や意欲の向上も図る。 |
| | 【生活習慣の確立】 保健指導やほげんだよりによる啓発を通して、歯みがき習慣の確立を図る。 | 保健安全 ・体育部 | 【成果指標】 「げんきっこチェック」で、1日2回以上、歯みがきができる。 | 「げんきっこチェック」で、「1日2回以上、歯みがきできた」と回答した児童の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 | 6月12月 げんきっこチェック | 1日2回以上はみがきできた児童80.8% 成果指標 B 1学期は家で歯みがきを1日1回もしていない児童はいなかった。歯科検診後の保健指導や歯みがきカレンダーを行ってきたが、残り2割の児童は家庭で1回しかしていない児童がいた。 | 1回しか歯みがきをしていない2割の児童も毎日2回できるようにするために、歯の衛生週間や学校保健委員会で虫歯予防の啓発を行う。また、2学期は染め出しを行い、その結果をもとに、児童にげんきっこチェックに取り組ませる。 |
| V 家庭・ 地域 との 連携 | 【キャリア教育の推進】 優れた芸術文化や働く人の生き方にふれる機会を各教科や総合的な学習の時間に設け、夢や目標をもち、意欲をもって学び続ける児童を育てる。 | 教務部 | 【満足度指標】 優れた芸術文化や働く人の生き方にふれる特設授業や各教科におけるGTとの授業、地域の方とのふれ合い、地域の方のよさを知る機会を通して学びに意欲を持っている。 | 町の先生との学習や地域についての学習・活動に興味をもって取り組んでいるという児童(3~6年)の割合が、 A 90%以上 (あてはまるくどちらかの場合はB) B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 | 7月12月 児童アンケート | 肯定的評価93.3% 満足度指標 A 今年度はOSサポーターの活用も始まり、地域の方とふれ合う機会が多くなった。各教科におけるGTの活用も昨年度のまの先生リストを参考に実施している。 | 2学期は芸術文化にふれる機会として県立美術館の出席講座を予定している。また、OSサポーター活用においても、各教科等の活動内容に合わせてタイムリーに活用できるようシステム化を図っていく。 |
| | 【社会性の育成】 社会性を身につけた児童を地域ぐるみで育成するため、あいさつを重点に、家庭・地域との連携を図り、身近な人に進んで明るいあいさつができる児童を育てる。 | 生徒指導部 | 【満足度指標】 家庭・地域や学校で、児童は進んであいさつができている。 | 進んであいさつをしていると回答した児童の割合が、 A 90%以上 (あてはまるくどちらかの場合はB) B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 | 7月12月 児童アンケート | 肯定的評価94.8% 満足度指標 A 教員や児童育成委員の保護者が、朝玄関であいさつをしたり、声をかけたりした。また、児童運営委員が考えたあいさつの企画を、全校で取り組んだ。 | 児童自らが進んであいさつできるように、児童からのあいさつを呼びかけたり、価値付けたりしていく。また、児童会や学級であいさつの大切さについて考え、実践していくことで、あいさつの質の向上を図る。 |